



「臥竜鳳雛」



*タイトルの意味は？調べてみよう

2019・7・19 第7号

学年主任 森本 聡一郎

1. 「あっという間に1学期終了！」

初々しく迎えた新入生登校日に入学式。眠い目をこすりながら机に向かった校外オリエンテーション合宿。初めての中間考査。必死になって先輩を応援した丹有、県総体。クラスで何とか踏ん張った合唱と応援合戦。これらの行事がしっかりと意識した記憶の中に残っていますか。学校であったことが鮮明に記憶に残っている人は充実した高校生活を送ってきた人だと言えます。記憶が朧気（おぼろげ）な人は不完全燃焼です。気持ちが違う方向を向いたり、積極的に取り組まなかったのなら、何をしても楽しくはなかったでしょう。ワイワイはしゃいだり、友達と騒いだことだけが楽しかったというのなら、高校生年齢としては痛い部類に入るでしょう。高校生であることを意識して行動していた人は学習面でも大きな落ち込みはありませんし、ただ惰性で漫然と生活していた人ほど、成績面での不安が目立っています。目的や目標があるのとないのとでは、入学以来の103日間の値打ちが随分と違ってしまったでしょう。

1学期終了のこの日に、今一度自分の生活を見直しておいてください。初心を保ち続けることの難しさを反省するとともに、自分に言い訳したり、他人のせいにして生活することが、どれほど自分をダメにしてしまうのかを考えてみてください。

とりあえず、キミ達が何とか1学期を過ごしてきたことを感謝するとともに、夏休みの無事を祈りつつ、再びキミ達が元気な姿で登校してきてくれることを待つことにします。健康と安全にはくれぐれも留意してください。

夏の解放感に浸って、事故や不注意から自分の大切なものを失わないこと。被害者になったり、加害者になったりして、人生を台無しにしてはいけません。また、命に関わるような軽はずみな行動は絶対にダメです。

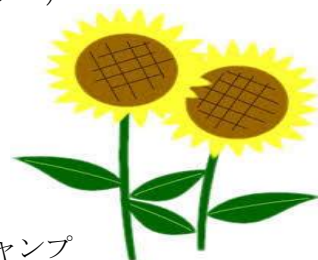
『夏季休業中の心得』 計画を立て、確実な実行を心掛けよう！

1. 休業中といえども、鳳鳴生としての自覚を忘れないこと。不摂生や無駄遣い、問題行動のないようにしよう。生命にかかわるような逸脱（いっだつ）行動は絶対にしないこと。
2. 課題・宿題は早めに終えること。7月中にやり切ってしまうのが必勝法。お盆が過ぎればあっという間に新学期です。夏季補習には絶対に遅れたり、欠席したりしないこと。
3. 無産階級の居候（いそうろう）であることを忘れずに、家の手伝いもしっかりすること。規則正しい生活を送ること。昼夜逆転の生活にならぬように。

※万一、変わったことがあればすぐに学校（552-0047）に連絡すること。
基本的には *No news is good news.* でいきましょう。

2. 「7月・8月の行事予定」

7月22日(月)	全学年夏季前期補習(～7/31)	救急法講習会(運動部員)
24日(水)	救急法講習会(運動部員)	
25日(木)	ふれあい看護体験(兵庫医科大篠山医療センター)	
27日(土)	第1回オープン・ハイスクール	
28日(日)	タイ王国語学研修(～8/1)	
8月9日(金)	ふれあい看護体験(岡本病院)	
10日(土)	岡山大学オープンキャンパス	
13日(火)	閉庁日	
8月21日(水)	1年夏季後期補習(～8/23)	
24日(土)	京都大学進路研究会	1・2年英語デイキャンプ
9月2日(月)	大掃除 始業式 LHR	提出物(通知表・税作文・読書感想文・保健スクラップ・社会を明るくするエッセイ・職業人インタビュー・地域探究夏体験シート)
3日(火)	課題考査(～4日)	授業開始



3. 「16歳の夏休み」 遠い昔の話ですが…

学年主任 森本聡一郎

私は毎年1月2日は高校の陸上競技部のOB会に参加しています。その時に毎年のように話題になるのが、夏休みの合宿の話です。7月下旬に鉢伏高原で5日間。今までに経験のない筋肉痛体験。そして、8月のお盆前に長野県黒姫高原で行う6泊7日。7月の合宿は全員参加ですが、黒姫合宿は14名が選抜されます。厳しく辛い合宿ですが生徒は合宿に行きたくて必死に先生へアピールします。どうしてそこまでして合宿に行きたかったのでしょうか。今思えば、日頃の生活では経験できないことを一人ではなく、仲間とともに乗り越えた記憶が鮮烈に残っているのでしょうか。朝6時からの16キロ走。午前練習は散歩と補強。午後練習は起伏のある山道での25キロ走。1日で40キロ走ることがノルマでした。黒姫合宿のメイン練習は野尻湖2周30キロ走ですが、この日の午後は先生が車で善行寺や野尻湖、黒部ダムまで連れて行ってくれました。懐かしい思い出です。

自分一人では乗り越えられないことでも仲間がいて、同じ目標をもち努力を継続できる同志がいれば、素晴らしい経験を積むことができます。今年も8月5日から黒姫高原に行ってきます。もちろん合宿で…。

1組担任 西本 智子

高校に入学してとりこになったのは朗読。先輩の朗読に魅了され、日本語の音声表現にのめりこんだ。夏の甲子園の開会式で司会をする高校生を見て、「自分もあの場に立ちたい」と夢見た。よい朗読を求め、高校3年間で答えは出ず、その後も実践を重ね、日本語を言語として学び、ようやく少し自分の考えを言葉にして説明できるようになってきた。高1の夏から、細く長く、道が分岐と合流を繰り返しながら今につながっている。

これまた夏季課題の量におののいていた高校最初の夏休みのこと。受験勉強に打ち込む先輩に出会うと、その先輩は、「大変だけど今すごく頑張ってるよ」と。「勉強が楽しい」とさわやかに話す同級生も複数いた。このことは、当時の私の心を強く打ち、その後もずっと心に残った。私自身が学ぶことの楽しみを実感できるようになったのは、高校生活も終盤にさしかかってからであるが、それからはどんな学びも楽しめている。今の私の学びの原点も高1の夏にある。

2組担任 沖守 春樹

高校時代の夏。思い出すことができない。ラグビーでタックルをし過ぎたためかもしれない。というのは冗談。私は高校時代、ラグビー部でフランカーというポジション担当だった。顧問にタックルを買われ、1番多くタックルに行くフランカーになった。脳震盪も幾度となく体験した。高校時代の夏休みは「勉強」「部活」で必死だった。思い出したくないのが、長野県で行った部活の夏合宿。3部練習終了後、漫画のような山盛りご飯を最低3杯、女子マネージャーが食べきれないおかずもありがたく(?)いただいた。1年同士の風呂での一息もつかのま、夜の12時過ぎまで先輩の分も含めたユニフォーム洗濯。睡眠時間4時間ちょっとで昼間は全力勝負の5泊6日だった。詳細は省くが、同学年の仲間や先輩の極限状態の表情は今でも覚えている。

高校時代の夏は全く思い出したくはない(笑)。しかし、大人になった現在も確実に自分の力になっている。

3組担任 石元 真理

私の地元徳島では、夏は特別な季節です。なぜなら、8月12日から4日間、阿波踊りが開催されるからです。夏はどこに居ても、よしこの(阿波踊りのお囃子)が聞こえてきます。その軽快なリズムを聴きながら、高校時代の私は習い事のエレクtoonに熱中していました。高校生になると、音大生やインストラクターと一緒にレッスンを受けるようになり、そのレベルの高さと講師の先生の厳格さに圧倒されていました。特に先生はとても厳しい方で、常に緊張感の中演奏していたことを覚えています。技術では音大生や社会人に劣る私は、人並みの練習をしたところでなかなか満足のいく演奏にはなりませんでしたが、それでも徐々にコンクールで賞を戴けるようになりました。

高校時代は自分の好きなことにとことん打ち込める貴重な時期です。皆さんも、今しかできないことにチャレンジしてみませんか？

4組担任 稲谷 英俊

私の高校時代の夏休みは「野球」しかしていませんでした。当時は朝から晩まで練習や試合をしていて、お盆休みもなく、部活のない日は2日か3日ほどでした。くたくたになって帰り、なんとか課題を終わらせるくらいしか勉強もできず、友達と遊びに行くこともなかったので私服を買った記憶もありません。後悔はしていませんが、もう一度高校生をやり直せるなら、次は野球以外のことをいろいろ経験してみたいです。私のように何か1つのことに熱中することもいいですが、高校生のうちに様々なことに挑戦することも非常に有意義だと思います。大切なのは何か行動すること、すなわち、アクションを起こすことです。何をやるのもだるい、面白くないと思っている人は何もしていない人です。是非、様々なことに挑戦してください。高校1年生の夏休みは人生で一度きりです。記憶に残る、楽しく、有意義なものになることを期待しています。

4. 「自由には義務という保証人が必要だ。 それがなければ単なるわがままとなる。」

ツルゲーネフ (ロシアの作家)

「自由」ほど難しくて不自由なものはない。自らの判断と責任において行動できるものが一体どれほどいることでしょうか。かく申す筆者も、法律・条例・職務規定・モラルといったものがなければ真つ当な人生を歩む自信は全くありません。きちんとした自分を持っていない人間にとっては、誰かに注意してもらい、意見してもらい、説教してもらい、構ってもらっているのが居心地が良いのであって、そのような甘えた人間には、「自由」などという恐ろしく厳しいものなど扱えません。結局は、「自由」の扱い方を間違えて、他人に迷惑を

かけてしまったり、果ては自分自身を傷つけてしまうことのほうが多いのです。普段から何らかの注意を受けている人は、このような甘えが顕現化(けんげんか)しているだけのことで、そのような人は安易に「自由」を手にして振り回してはいけません。すべきことをしている人だけが「自由」を手にする権利と資格があります。義務を果たさない自由など、百害あって一利なしです。

高校生活で初めての夏休みを迎え、さらに多くの「自由」を手にするであろうキミ達。「自由」は使用上の注意を守らないと、とんでもないことになりますよ。自由には猛烈な副作用がありますから。